

様式第2（第5条関係）

令和4・5年度期第9回犬山市青少年問題協議会・犬山市青少年センター
運営協議会 会議録

1 附属機関の名称 犬山市青少年問題協議会及び犬山市青少年センター運営協議会

2 開催日時 令和5年10月23日(月)午前10時～午前10時40分

3 開催場所 犬山市役所 202 会議室

4 出席者した者の氏名

(1) 委員：佐々由高、板津克哉、畑竜介、小竹摩記、田島奈生美、深見公子、南谷亜紀、
内藤慎二、長瀧貴栄、近藤友貴（10名／11名中）

(2) 執行機関：文化スポーツ課課長補佐 星野弘之、青少年センター所長 梅村淳、
同所相談員 角村利恵

5 報告事項

(1) 第2回犬山市青少年健全育成市民会議役員会（深見委員）

6 議題

(1) 令和4・5年度期 青少年問題協議会研究の提言について

(2) 令和4・5年度期 研究のまとめについて

(3) その他

(4) 3分間スピーチ

7 傍聴人の数 0人

8 内容

(1) 会長あいさつ

- ・朝晩寒くなってきた。秋が以前に比べて短くなってきたように感じる。寒暖差が大きいので、体調には気を付けていきたい。

(2) 犬山市青少年健全育成市民会議役員会報告

- ・会議録を基に深見委員が役員会の内容を報告した。主な内容は標語表彰式の役割分担と会報「おあしす48号(12月号)」の内容についてであった。

(3) 令和4・5年度期 青少年問題協議会の提言について

- ・提言書を出すことは素晴らしいことだと思うが、現状にあわせていくのもありだと思う。市からの諮問があるようにしていければと考える。
- ・諮問あるなしではなく、市の施策等のために提言書が必要な場合もあるが、今までの研究のまとめとしての場合もありだと思う。今回のように青少年に関わることを研究し、理解を深める活動を続けていくことが必要な場合もある。
- ・今回は、2年間のまとめとしての冊子としていく。提言書をなくすということではなく、新たに令和6年度7年度期の研究で、諮問があれば提言書をつくってきたい。

(5) 3分間スピーチ(板津委員)

- ・会長の佐々さんのもと、カブ・ボーイスカウト活動をしてきた。佐々会長の教え子になる。上級生とのキャンプや生活で学ぶことが大変多かった。その後の生活で大変役立った。親になって、自分の子どももカブ・ボーイスカウトに入れたかったができなかった。人としての“なま”の繋がりを体験させたかった。
- ・武士の世界で薩摩藩は“郷中教育”というものがあった。先輩が学んだことを後輩に教え、その後輩は自分の後輩に教えていくというシステム。最近はそんなことが少なくなっている。大切なことは“こころ”で繋げていくことだと思う。大切な事であるが、難しいことだとも思う。

(6) 連絡・報告事項、その他

①次回の3分間スピーチについて（内藤委員）

②本会議の青少年健全育成市民会議での報告者について（小竹委員）

③本会議の次回開催予定日は12月4日(月)午前10時から202会議室

令和5年 月 日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)
